

「やりたい」という気持ちを大切にしたい生活単元学習の創造

—生活経験の拡大などにより自信の形成を目指すことから—

特別支援教育班

成田 響子(特別支援学校教諭)

1 自己課題設定理由

「やりたい!」という気持ちにあふれている生徒の多い知的障害特別支援学校高等部の学級。でも経験の少なさ、自信のなさから、「やりたい」気持ちがあっても消極的になることがある。彼らのあふれるエネルギーを生かせるような単元を設定し、「やりたい」を「できた」にかえて、次の「やりたい」につなげたいと考えた。

2 自己課題解決の方向性

高校時代は行動範囲の広がりによって、興味も広がり、同時に友達関係も深まっていく時期である。興味を拡大したり友達関係を深めたりする経験を重ねれば、徐々に自分に自信をもち、活動に意欲的に取り組めるようになるのではないかと考えた。

そこで、

①興味広がる生活経験を積み重ねる。

②友達とのかかわりを深める。

③自己決定を基に活動し成就感を味わう。

この三つの方向性から「自信」を形成し、「やりたい」という気持ちを引き出していくような単元を設定したいと考えた。

〈生活単元学習 年間指導計画〉

| | 単元名 | 目指すポイント |
|------|----------------|------------|
| 1 学期 | 新しい学校・友達 | 興味の拡大 |
| | 校外へ出かけよう(1) | 興味の拡大 |
| | 夏野菜を育てよう | 自己決定 |
| 2 学期 | 秋野菜を育てよう | 自己決定 |
| | 宿泊学習で花火係をしよう | 友達とのかかわり |
| | 文化祭でステージ発表をしよう | 友達とのかかわり |
| 3 学期 | 校外へ出かけよう(2) | 興味、自己決定、友達 |

興味広がるような経験を重ねる

友達とのかかわりを深める

自己決定し、成就感を味わう

「自信」を形成→「やりたい」気持ちへ

3 実践概要

〈宿泊学習で花火係をしよう〉

| 活動内容 | 生徒の姿・変容 |
|---|--|
| ①学級での話合い ・どの花火をどれだけ買うか。 ・いつ買いに行くか。 ・用意するものは何か。 | 月1回程度、学級での話合いの時間を重ねることで、徐々に発言できる生徒が増えた。 |
| ②花火の運営 ・準備、進行、片付けの全てを学級全員で行う。 | 周囲の様子を見て、他の生徒も「みんなで片付けるよ」と、友達に声をかけあい、協力して活動していた。 |

〈文化祭でステージ発表をしよう〉

| 活動内容 | 生徒の姿・変容 |
|-------------------------------------|---|
| ①学級での話合い ・何を発表するか。 ・どの役を演じるか。 | ・ビデオや写真カードを用意することで、全員が自分の演じたい役を自分で決めた。 |
| ②練習・準備 ・衣装・小道具作り ・化粧 | ・「お化粧しないの?」という生徒がいたので、お化粧をすることにしたら、「ママが写真撮ってくれてうれしかった」と言った。 |

4 実践の成果

・「校外へ出かけよう」で街を歩いた際には、映画館の前で「俺の見たい映画はやってない」というなど、生徒たちは様々なものに気付き、興味を広げていた。また公共バスに乗る経験を重ねることで、「今度〇〇に行ってみたいな」と新たなことへ「やりたい」という気持ちを示すようになった。

・発表が苦手だった生徒が、宿泊学習や文化祭を通して友達とのかかわりを深め、自分に自信をもつようになった。12月の生徒会選挙では、友達の応援演説を自分で考えて、大きな声で発表することができた。

担当指導主事 特別支援研究係 木村 隆美